

「みんなが書く戯曲のコンテスト」障がいのある人の生活・思い・願いを演劇台本」投稿作品

①タイトル「優先席」

②作者：Parade556

③登場人物表

河瀬幸也 (29) 学校職員

大村風咲 (27) 河瀬の恋人

志田親太朗 (61) 派遣社員

優先席の老婆

周囲の乗客たち

電車の中。

優先席の前に立っている河瀬幸也 (29) と大村風咲 (27)

優先席は3席、すべて埋まっている。

風咲、河瀬の腕に腕を絡ませている。一見すると恋人同士の仲睦まじい光景に見えるが、電車が揺れると、しつかりと河瀬を支えている。

電車が駅に停止。

風咲の目の前の客が立ちあがり、降りていく。

風咲 コーちゃん

河瀬 大丈夫

風咲 大丈夫

河瀬 オウムか

風咲 へへ。でも

河瀬 大丈夫だから

風咲 (河瀬を見る)

河瀬 わかったよ。でも、譲るからね

風咲 わかったから

河瀬 ほんとだよ。俺なんてさ、全然

風咲 (遮って) いいから。いいから

河瀬、風咲に促され席に座る。

電車の発車ベルが鳴る。

志田親太郎(61)、駆けこむようにして乗り込む。見るからに酔っている。

志田、ふらふらと反対側のドアに歩き、ぶつかるとして自動ドアの手すりに掴まる。

河瀬と風咲の対角線に立つような恰好。

周囲の客が、訝し気に志田を見る。

自動ドアが閉まり、電車が動きはじめる。

風咲 お腹空いた

河瀬 何食べたい？

風咲 たまには、食べたいもの言って

河瀬 ないよ。俺は、何でも良い

風咲 その、何でも良いって意味わかんないんだけど

河瀬 なんでよ

風咲 なんか、コレじゃなきやって日ない？口が

河瀬 口が？何ソレ

志田の視線が、河瀬に向かう。

河瀬と風咲は、気付いていない。

志田 イチャイチャしてんじゃねえよッ

志田の声に、一瞬、周囲の空気が固まる。

風咲、振り返ろうとするのを河瀬が止める。

志田は、河瀬を見ている。

志田 オマエ、立てよ

志田、フラフラと近づいてくる。

志田 オラ、立てって

河瀬 …

志田 恥ずかしくないのか？人間として。人間としてよお

志田、河瀬の斜め前に来る。

志田 わけえのが、だらしねえ。俺は、60だぞ。オマエ、いくつだ

河瀬 …

志田 俺の、半分くらいだろうが

河瀬、立ちあがる。

その拍子に電車が揺れ、河瀬バランスを崩し、倒れそうになる。

凧咲 コーちゃん

凧咲、河瀬を支えようとするも、一緒に倒れてしまう。

志田 か、情けないねえ。最近の若いのは

志田、嬉しそうに笑う。

凧咲、カッと志田を睨みつけると、河瀬の左足のズボンをめくる。義足。

凧咲 見て。障碍者なの。足、ないのッ

志田 あっ

凧咲 あっ、じゃねえよ

河瀬 凧咲。いいから

凧咲 見た目だけで判断してんじゃねえよ

志田 わ、ば、このヤロー、そんなのわかんねえじゃねえかよ

凧咲 わかんねえじゃねえよ

河瀬、凧咲の手をズボンから外し、ズボンを裾まで伸ばす。

志田 わかんねえだろ。だったら、ずっと足出してろってんだ

凧咲 ふざけんなジジイ

河瀬 凧咲。いいから

凧咲 でも

志田 クソっ。最悪だよ

凧咲 最悪はてめえだよ

志田、二人から離れていく。

凧咲、スマホを取り出し、志田をカメラで撮影しようとする。

河瀬 凧咲。ほんとにもう

凧咲 逃げんじゃねえよ。オッサン

志田、逃げていく。

凧咲、立ちあがり、志田を追いかけていく。

河瀬 いいんだ。凧咲。いいの。やめろってもう

凧咲、固まる。

河瀬 ごめん。いいから。もう。ね

凧咲 …

河瀬 ありがとう。凧咲

河瀬、立ちあがると、優先席の前の手すりにつかまる。

優先席に座る老婆 お座りになって

河瀬 良いんです

優先席に座る老婆 でも

電車が次の駅に停まる。

たくさんの客が降車しようと立ちあがる。

優先席の老婆 ほら。空いた。あっち。ね

河瀬 ありがとうございます。ほら、風咲。行こう

河瀬、風咲を促して一般席の方に向かう。

二人、並んで座る。

電車の発車ベルが鳴る。

河瀬  
：

風咲  
：

自動ドアが閉まり、電車がゆっくりと動き出す。

風咲 ごめん

河瀬 ありがとう

風咲 ごめん…だって、許せなくって

河瀬 …道具に使いたくないんだ

風咲 コーちゃん

河瀬 なんか、俺まで道具になっちゃった感じがして

風咲 違うよ。違う

河瀬 いや、そういう意味じゃなくてさ

風咲 私は、コーちゃんが、コーちゃんのためにね

河瀬 …いや、わかんないよ。風咲には…わかんないよ

風咲 コーちゃん

河瀬 あ、あ

風咲 ごめん

河瀬 いや、ごめん。俺こそ。ごめん

風咲 代わってあげたい。ほんとは

河瀬 風咲

風咲 (河瀬を見る)

河瀬 ウソでも、そんなこと言っちゃダメだ

風咲 コーちゃん

河瀬 昨日まで普通だったことが、当たり前だったことが、どんなに大切だったか、ありがたかったか、俺にはわかる。だから、ほんとに、そんなこと言っちゃダメだ

風咲 ごめん。コーちゃん。ごめん

河瀬 ごめん。俺、ほんとにさ、代わってほしくなっちゃうからさ

風咲 コーちゃん

河瀬 俺、自分がこんなに弱くて情けないヤツだなんて思わなかったよ

風咲 コーちゃんは弱くないよ

河瀬 アレもできない。コレもできないって、最近、出来ないことばかり数えてる。情けないよ。  
自分でも

風咲 コーちゃん

河瀬 俺、今、もしも神様が現れて事故の前に戻してくれるって言ったら、何だってできるよ。最悪、人だって殺せる。もしかしたら、風咲のことだってさ

風咲 (泣きそうな顔で河瀬を見る)

河瀬 はは。最悪だよな俺。俺って、こんなヤツなんだよ。ほんと。クソっ

風咲 コーちゃんは最悪なんかじゃないよ。ごめん。気持ちわかってあげられなくて

河瀬 何言ってるの。あたりまえじゃんか

風咲 でも最近、やっぱりコーちゃんと距離がある感じがして。なんか、すごいワガママだって思う

よ。思うけど、なんか、それが、すごい、ヤダ

河瀬 風咲

風咲 あの日だって…事故の日だって

河瀬 もう言うなって。あの日のことは

風咲 でも、コーちゃんが。コーちゃんが (泣き出す)

河瀬 ごめん (風咲の肩を抱く)

風咲 (泣いている)

河瀬、風咲の掌が汚れていることに気づく。(先ほど、一緒に倒れたとき)

河瀬、ポケットからハンカチを取り出し、風咲の掌を拭く。

河瀬 でもさ、でも、まだ、やれることたくさん残ってたんだよ

風咲 (泣いている)

河瀬 風咲と一緒に。風咲と一緒にさ

風咲 うん

河瀬 旅行だつて行ける

凧咲 うん

河瀬 飯だつて食べる

凧咲 うん

河瀬 まだまだ、やれることがいっぱいあるんだ

凧咲 うん。うん

河瀬、凧咲の手を拭くのを止め、ポケットにハンカチを戻す。

凧咲 ありがとう

河瀬 俺、今度、異動願い出すんだ

凧咲 異動？

河瀬 そう。学生課のボランティアセンター。もっと、そういう世界が知りたい

凧咲 コーちゃん

河瀬 なんか都合いいよな。こうなるまで、俺、そういうの全然興味なかった

凧咲 そんなことない…ないと思う

河瀬 なんか、この感じ、慣れていこうな

凧咲 うん

河瀬 何、食べよつか

凧咲 シウマイ

河瀬 横浜と逆だぞ。行くの

凧咲 どこにでもある

河瀬 ないだろ。シウマイは

凧咲 シウマイ

河瀬 シウマイだろ

凧咲 違うよ。シウマイ。崎陽軒が言ってた

河瀬 崎陽軒がすべてじゃないだろ

凧咲 すべてだよ。中国だとシャオマイ。広東省の料理

河瀬 なんで知ってんのよ

凧咲 ググった

河瀬 いつ？

凧咲 さっき

河瀬 口がシウマイだったから？

凧咲 そ、口はがシウマイだったから。それも慣れてね

河瀬 それは無理かなあ

凧咲 どうしてえ

二人、見つめ合い、笑い合う。

【了】